



沖津宮現地大祭斎行



宗像



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

神職以外で沖ノ島への入島が年に一度許される沖津宮現地大祭が五月二十七日行われ、全国から二五二名的一般参列者と、大島の氏子で構成される沖・中両宮奉賛会、同翼賛会、神職等、総勢三〇〇名が沖ノ島に渡り、敬虔な祈りが捧げられた。

我国の命運を賭けた日本海海戦は明治三十八年五月二十七日、沖ノ島の北西、対馬海峡より始まった。沖津宮現地大祭はこの日本海海戦を勝利に導いた先人達を顕彰し、併せて国の平安を祈願するため、毎年五月二十七日に斎行している。

参列者は前日の二十六日、筑前大島に参集。中津宮で午後六時より渡島安全祈願祭が斎行され、翌日の無事渡島を祈念した。祭典後、班ごとに引率の神職より説明・諸注意を受け、その夜は各自大島の宿に斎泊した。明朝午前七時、一行



海中での禊

余滴

沖ノ島は玄界灘の真只中に屹立する。その厳しい自然環境での沖ノ島勤務は、普段の生活環境では感じることのない自然の脅威、恵みを肌で感じる時となる▼気象は、気圧等の動きにより敏感に変化し伝わる。台風時、海上は七日前後の大波が逆巻き、沖の波頭は、鋸の歯が天空を切り裂く様相となる▼風浪は、長い歳月をかけて岩石を浸食し、芸術的な造形に造り上げ、その白い岩肌は海の青さと絡み厳かに海岸線を繋ぐ▼嵐の後には、必ず穏やかな日が訪れる。夜間、澄みきつた空には満天の星が輝き、周囲の海上は漁火で賑い豊漁の恵みを頂く。その海の幸は、早朝、社務所に豊漁感謝として届き、神前に供えられる▼森厳な森は「ツブノキ」の原生林を中心に色々な植物が生い茂り森を構成。動植物はその恵みを受け繁殖する。「オオミズナギドリ」は、凡そ十方羽が生息し、この島で子育てを行い南方へ帰る▼木々は、暴風により自ずと高さが制限され、根っ子は大地に強く根を張り、その太い根や幹は周りの岩石を呑み込む形で支え合い森が形成されている。依つて島は安定感を保ち大雨による土砂の流失を防ぎ、保水力を増し新たに御神水となり甦る。この共生の連続性が島の美しい姿を支えている▼古代より人々は、大海の中に屹立する沖ノ島の神々しさに、畏怖の念を抱き、神を感じ祭祀を続けてきた。(渡)

神具・装束・授与品
井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



波止場での直会

は大島渡船「しおかぜ」をはじめ各々乗船し、一路沖ノ島を指した。午前九時には全船沖ノ島に到着。一同直ちに海中で禊を行い心身共に清めた後、四百段の参道を進み、島の中腹に鎮座する沖津宮本殿へ参集した。

午前九時三〇分、沖津宮にて現地大祭を斎行。高向宮司が日本海海戦を顧みて皇室・国家の御安泰、国民の安寧を祈る祝詞を奏上し、各代表が

順次玉串を奉奠、敬虔な祈りのなか滞りなく祭典は終了。

その後、波止場で沖・中両宮奉賛会、同翼賛会奉仕による直会が行われ、刺身、煮魚、その煮汁でいただく素麺に一同舌鼓を打ちながら、参列者は神の島でのひと時を過ごした。正午、一同は各船に乘込み沖ノ島を離島、午後一時半には全船が大島に到着し、各々帰路についた。

一方、沖ノ島に渡島出来な女性たちは、沖ノ島の祭典と同時に大島の「沖津宮遙拝所」の祭典に参列し、遙か沖ノ島に祈りを捧げた。

今年是全国放送のテレビ等で、複数回当大社のことが放送されていたこともあり、五二六名にも及ぶ申込みが殺到した。先着順のため半数以上の方の渡島をお断りした。世界遺産登録への機運が高まるなかで、沖ノ島の認知度はさらに広がりを見せるであろうが、神社として沖ノ島の尊厳を護持しつつ祭事をどう継続していくかが浮き彫りとなった。今年の祭典であった。

宗像漁業協同組合鐘崎本所

沖津宮に鳥居奉納

六月十三日、宗像漁業協同組合鐘崎本所(組合長 中村忠彦氏)に所属する漁師等約四十名が沖ノ島に渡島、沖津宮本殿に最も近い位置に建つ第四鳥居を奉納された。



当日、日も明けない早朝午前五時「第二共進丸」「第三新幸丸」「第十六蛭子丸」の鐘崎で巻網漁を営む三隻に分乗して来島。沖津宮に着くと、鳥居奉納奉告祭を斎行し、鳥居の建て替えに取掛った。まず、傷みの見られた古い鳥居をチェーンソー等で解体し、組み立てるばかりに準備された木材を組上げ、約二時間の作業で真新しい鳥居が建立された。作業を終えた、奉仕者等は清々しい笑顔で下山し、沖ノ島を後にした。



作業を終へ新しい鳥居前にて

沖津宮本殿に至る四〇〇段の参道を進んだ最上部に建立された新しい鳥居は、聖域に踏み入れるにふさわしい輝きを取り戻した。

中津宮末社牽牛神社

参道階段修復の御報告

歪みが激しく崩落の危険性が長年懸念されていた牽牛神社(中津宮境内に祀られる末社)に至る参道階段の修復工事が、eデザイン(株)(宗像市)の協力により施工されました。

今年の七夕祭(八月七日)の折りには新たな参道で安心して御参拝いただけます。



施工前



施工後

福岡教育大学日本画研究室 福永晴帆作襖絵を再現、レプリカを奉納

当社の儀式殿には皇室専用控え室の便殿があり、そこには日本画家の福永晴帆(明治十六〜昭和三十六没)作の襖絵と腰障子絵がある。この保存修復に向けて当大社と福岡教育大学日本画研究室(准教授 松久公嗣)との連携事業が平成二十年より進められている。この事業にありたり福岡教育大学日本画研究室により腰障子絵の再現模写を行うと共に襖絵を高精細画像データ化し後世に伝えるデジタルアーカイブ作業が(株)アートプロセス、大日本スクリーン印刷(株)の協力にて進められてきた。

そこでここまでの研究成果として完成したレプリカ作品が当社に奉納され、その奉納奉告



祭が五月二十八日に仮本殿にて行われ、福岡教育大学 准教授松久公嗣氏、(株)アートプロセス社長 深堀 薫氏、他関係者三名が出席された。

この検証結果により襖絵は白紙の襖状態で描かれた作品であり、一枚の紙に描き襖サイズに切ったのではない事や、本来は現状よりも背景色が薄かったが経年劣化により色濃くなった事、腰障子絵については白色のタンポポが描かれているが、もともとは黄色で経年劣化により白色に変化した事などが推測された。またこの研究発表として六月三日〜二十九日まで「福永晴帆 日本画展」と題して「海の道むなな館」で特別展も開催され一般公開された。

平成二十六年度 第一回 氏子会氏子総代総会開催



五月二十一日、今年度第二回目となる氏子会総代総会が置船会長以下一〇〇名出席の下、来賓として阿部弘樹・伊豆美沙子両県議会議員にもご臨席いただき、清明殿にて開催された。

置船会長を議長に、前年度の事業・決算報告、本年度の事業・予算案が



地区中ノ尾区選出の大竹善雄評議員に置船会長より委嘱状が手渡され、総会は無事に終了した。

審議され、すべての議事が承認され、また、造営担当より造営奉賛金の御礼と修復事業の進捗状況が報告され、更なるご理解とご協力をお願いした。最後に本年度より総代・評議員に新たに「ご就任頂いた方々への委嘱状贈呈式が行われ、該当者を代表して吉武地区中ノ尾区選出の大竹善雄評議員に置船会長より委嘱状が手渡され、総会は無事に終了した。

中津宮にて奉納演奏 九州交響楽団が出前コンサート



五月二十五日、九州交響楽団による「いきいき出前コンサート」(主催 宗像ユリックス、宗像市大島地区コミュニティ運営協議会)が当大社中津宮で開催され、五月晴れの好天に恵まれ、多くの島民が集まるなか、ヴァイオリン、チェロ、ヴィオラの管弦四重奏でクラシックや日本の曲等が披露された。

このコンサートは九月十四日に宗像ユリックスで開催され

る「宗像ミアーレ音楽祭」に先駆け、同楽団員が各地域に出向き、その場所での演奏をお届けし、一流の演奏家による本物の音を通して「生きる喜び」や「感動する心」、「豊かな感受性」を育むことをコンセプトに実施されている。

当日は九州交響楽団の演奏家四名が神前で奉納演奏の後、コンサートが開催され、最後は、大島小・中学校の校歌をピアノの演奏に合わせて、島の子供達の声高々に斉唱、来場者等の歌声も神苑に響きわたった。

第一回 「宗像国際環境一〇〇人会議」 国内外の有識者等が宗像に集い、海の環境保全をテーマに討議

五月三十日より六月二日の四日間にわたり、海の環境保全と次世代を担う人材の育成を目的とした「宗像国際環境一〇〇人会議」(共同議長Ⅱラモス・ホルタ東ティモール民主共和国前大統領／ラジエンドラ・パチャウリIPC議長)が、海の道「むなかた館」、宗像ユリックス、ぶどうの樹、グローバルアリーナ等の宗像市とその周辺施設を使って開催され、国内外の研究者や文化人、選ばされた

五十名の大学生等一〇〇名が第一回目のテーマ「海の道は未来へのみち」について熱い議論を繰り広げ、人材育成プログラムでは宗像市内の中学生を対象にした特別講演等も行われた。期間中には当大社葦津権宮司も招待され、参加した大学生を前に対談を行い、また合同をぬって会議に出席された多くの研究者や文化人が当大社に参拝され、古代から大陸に向けて開かれた宗像の歴史、風土に関心を寄せていた。

会議は共同議長を務め、ノーベル平和賞受賞者でもあるラモス氏より「地球規模の環境破壊は、何十年も前から警告されているのに、目をつぶってきた。持続可能な世界構築に向かって皆で問題解決の方策を探ろう」などの提言を受けて開会。研究者などの社会人が大学生のグループ討議にアドバイザーとして参画、学生たちの発表を繰り返ししながら進行し、次世代を担う大学生らが、「会議の参



ラモス氏の講義を受ける中学生 (海の道むなかた館)



大学生と研究者によるグループ討議 (ぶどうの樹)

加者でネットワークをつくる」など、「環境のために明日からできること」を提言した。

最終日にはスウェーデン政府で環境分野の条約交渉を担当するリサ・エミリヤ・スペンソン大使の講演があり、四日間に及んだ会議は幕を閉じた。

日本の国際交流に大きな役割を果たした宗像三女神を奉祀する宗像の地に於いて国際会議が開催され、今後継続する意義は誠に深い。本会議が、今後、神社神道が培ってきた自然に対する畏怖、畏敬の念、共存共栄など多様性尊重の精神

トヨタ自動車(株) 名誉会長 張富士男氏参拝

五月二十日、トヨタ自動車(株)名誉会長張富士男氏が当大社を参拝された。予てより当大社に深い関心を持たれており、この度念願が叶い参拝の運びとなった。

張氏は正式参拝後、勅使館で、地鶏のスキヤキを召し上がりながら、同席した高向宮司、葦津権宮司と歓談された。昼食後は、第二宮・第三宮を参拝、さらに神宝館なども拝観いただいた。



中央右が張氏

張名誉会長の今後益々の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。

を、より多くの方々に触れていただく機会となればと祈るばかりである。本会議は宗像市を会場に毎

年定期開催され、次年度は今年度の会議を経験した大学生等も実行委員会に加わり、環境保全の実践に務めて行く。

会期中、参拝された方々



徳川宗家 第18代当主 (中央)
谷井宗像市長 (左)



JR東海 富西名誉会長 (中央)
JR九州 石原会長 (右)

宜仁親王殿下の 御薨去に際し謹んで 奉悼の意を表します。



去る六月八日、桂宮宜仁親王殿下が急性心不全により六十六歳で御薨去あそばされた。同殿下は、三笠宮崇仁親王殿下の第二男子として昭和二十三年に御誕生、NHKの嘱託勤務を経て昭和六十三年には桂宮家を創設されるも直後に御発病、車椅子の宮様として知られる。日豪協会、大日本農会、大日本山林会、日本工芸会などの各総裁職の公務をお勤めになられた。

御実家にあたる三笠宮家と当大社とは御縁深く、父宮・崇仁親王殿下には度重なる御参拝を頂いている。

当大社では「斂葬の儀」(本葬)当日の六月十七日午前十時、「宜仁親王殿下薨去遙拝式」を執行。雨天に付き斎館建物内で行われ、宮司以下神職・職員一同が殿下の薨去を悼んだ。また、先立つ十六日には高向宮司が上京、宮邸に参上し大社を代表して記帳申し上げている。

時満ちて道ひらく

造営日記 ⑧

①玉切り…1尺幅に切断
今回使用した原木は、直径約60cm、樹齢200年で木曽産



②みかん割り
大割包丁と木槌を使用



③木取り
厚さ2.4cmまで小割りします



先日、造営担当が本殿屋根に使用される「さわら板」検収の為、葺替え工事を行っている児島工務店の島根工場へ出向してまいりました。今回は、さわら板を原木から加工する工程について御紹介します。辺津宮本殿及び拝殿の葺き方は、「こけら葺」と呼ばれるもので、当社では椽を使用しています。杉・栗等を用いる場合もあります。

④そば取り…材の整形



⑤板へぎ…厚さ6mm
宗像大社の本殿はこの厚さの板を葺きます



⑥仕上げ…凸凹がないよう
銚包丁で削ります



⑦宗像大社で使用する材
2週間から1ヶ月乾燥させます



御造営奉賛者御芳名 (平成二十六年五月・順不同・敬称略)
ご賛同賜りました皆様に、御礼申し上げます。

Table listing names and addresses of donors, organized by amount (e.g., 200,000円, 100,000円, 50,000円, 10,000円).

宗像大社氏子会 御造営奉賛者御芳名 (平成二十六年五月) (順不同・敬称略)
ご賛同賜りました皆様に、御礼申し上げます。

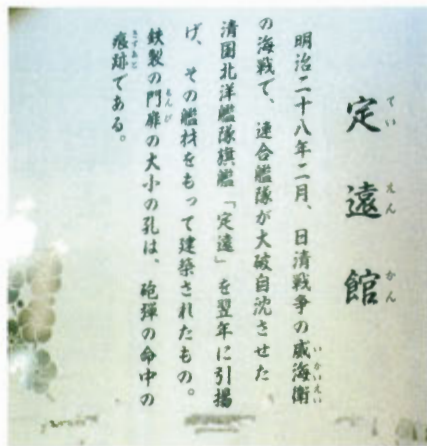
Table listing names and addresses of donors from the Munakata Daijingu Shrine Association, organized by amount.

夏越祭・大祓神事 (ご案内)

恒例の夏越祭が近付いて参りました。このお祭りは、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日を無事に過ごしていただくための神事でございます。皆様お誘い合わせの上、御参列下さいますよう御案内申し上げます。



七月三十一日(木) 午後五時
大祓神事 引き続き 夏越祭



明治二十八年二月、日清戦争の威海衛の海戦で、連合艦隊が大破自沈させた清国北洋艦隊旗艦「定遠」を翌年に引揚げ、その艦材をもって建築されたもの。鉄製の門扉の大小の孔は、砲弾の命中の痕跡である。

建物の玄関口の欄間は艦内の彫刻が使用されたり、縁の下の棧はカッター(複数の人間がオールで漕ぐ大型のボート)のオールが嵌めこめられたり、門扉は砲弾で穴のあいた艦の鉄材が使われている。この建物は

(続)
浜の寄物



いしいただし

太宰府にある定遠館はどのような出来あがったのであろうか。

現在も残って天満宮職員の社宅として使用されているという。

太宰府天満宮の菅公会会長だった

また解体された時の艦内の調度品の半分は宮内庁に奉納された。定遠艦の前庭には夥しい艦に装備された武器類が展示されていたが、太平洋戦中に供出されて現存しているものはないようである。尚、定遠館の額は明治三十六年、東伏見宮依仁親王が天満宮参拝時に揮毫されたもので、天満宮文化研究所に保存されている。定遠の操舵器は長崎のグラバー邸に保存されているという。(以上は「とびうめ」第七十一号、昭和六十二年に掲載)

定遠の姉妹艦、「鎮遠」はどうなったのであろうか。威海衛の海戦で我海軍水雷艇の攻撃、二二〇発の命中弾をあげたものの沈没にいたらなかった。

日本海軍に捕獲され、明治二十八年三月十六日、賠償艦として日本へ



鎮遠



水雷艇の奮戦

引き渡された。明治三十一年三月に二等戦艦となつて、明治三十八年五月、第三艦隊第五戦隊に所属し日露戦争に参加、黄海海戦、日本海戦を経験している。黄海海戦で二発被弾し、日本海海戦では被弾していない。

三十八年八月にロシアの戦利艦の戦艦「レトウイザン」「ポペータ」(共に二二、九〇〇t)を回航(曳航、護衛)にあたる。明治三十八年八月二十八日に舞鶴港に入港、新艦が建造されるなかで建艦から約三十年の時がたち、旧艦となつて明治四十四年四月に除籍されている。

日本国民を震撼させた最強の戦艦、定遠・鎮遠の二巨艦は不思議な命運をたどつて終わりをつげたが、定遠艦は太宰府にその艦材を門扉に残している。注、水雷艇は魚

雷を塔載した五十トンほどの小型艦、乗員十六名。

第43回「宗像大社短歌大会」のご案内

◆日時 平成26年11月2日(日)

- 小中高生の部… 9:30~11:00
- 一般の部…12:00~15:40

◆会場 宗像大社「清明殿」(宗像市田島2331)

◆応募方法

- 詠草…小中高生は1人1首。一般は1人2首まで可(未発表のもの厳守)。B4の400字詰め原稿用紙の右半分に着書で作品(固有名詞など難読語にはふりがなを)、左半分に郵便番号・住所(マンション名)・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を明記のこと。小中高生は学校・学年も明記のこと。
- 出送料…1首1,000円(定額小為替:何も記入しないで下さい)・小中高生は無料。詠草集送付のための切手(52円切手2枚)を作品と同封のこと。
- 締切日…一般=平成26年8月30日(土)(当日消印有効) 小中高=平成26年9月10日(水)(当日消印有効)

○送り先…〒811-4175 宗像市田久5-25-17

「宗像大社短歌大会」実行委員会事務局 宛
「小」「中」「高」「一般」の別を朱書きのこと。
※事務局の電話=090(8393)3299

◆選者 小中高生の部=桜川冴子 (敬称略・50音順)
一般の部=青木昭子・桜川冴子・恒成美代子・野田光介
※講演(一般の部)=中西輝磨 題目=「歌会始」

◆発表 平成26年11月2日(日) 大会当日
選考結果送付希望の方は、結果送付代(52円切手2枚)を同封して下さい。

◆賞 小中高生の部=宗像市長賞他
一般の部=福岡県知事賞他

◆共催 「宗像大社短歌大会」実行委員会

◆共催 毎日新聞社

◆後援 福岡県・福岡県教育委員会・宗像市・宗像市教育委員会・福津市・福津市教育委員会・宗像大社・宗像大社氏子会
※応募によって得られた個人情報、本大会以外に利用しません。

第六三五回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メロ



足引きの山に住みたる初夢は汝のスタイルはカシミヤの服
艶な歌。(足引きの山に住み見る初夢に汝は身に纏ふカ
シミヤのドレス)。

霧島より帰り来し子の土産大根牛蒡の味噌漬けは美味し
子の心遣いを喜ぶ作者。三句を(手土産の)、結句(味噌
漬け美味し)と。

石仏幾体ありて大岩の窪みの水は目洗ひ水と言ふ
四句からの飛躍が良い。初句はせきぶつと読むので表
記を(石ぼとけ)に。

未草は名のごと午後に咲き始む水面に白き花群見ゆる
詠まれた景が美しい。三句から(始め水面にひらく白き花群)。

たごり姫いちきしま姫たぎつ姫おはたらきならむ風の日つづく
宗像の三柱の女神を身近に感じる作者の心情が表れた一首。

三年振り外の空気と景色吸ふ押し車に乗り子の愛をうく
外出を楽しむ作者の気持ちがよく分かる。四句は(車椅子にて)。

尿検へ案内されしに帰るさの分からぬ吾の方向音痴
迷路のような院内。尿検は省略せず尿検査と。三句(帰り道)に。

ぶしやうせる書斎に入ればいちまの光の中に降れる海雪
埃を海雪に見立てた作者。不精が掃除のことと分かると良いのだが。

学頭の豊福氏旧居たずぬれば石碑の苔にはなの散るらん
豊福氏は江戸初期に宗像文書などを残した人。結句(散り居)に。
潮風と夏日を浴びて二階バスシーサイドもちコースを走る
爽やかな景。下の句はコース名ではなく実景、(百道の
浜に沿う道はしる)としては。

電子辞書身ぢかになりて広辞苑第六版は棚にをさまる
評者も同様でよく分かる。二句は(身ぢかに使ひ)に。
朝の冷え嘘のような真昼日を庭草わけて初蛙鳴く
今の時期の気候がよく分かる。四句は(庭の草生に)などと。

星空を知らせし妻は炊事場へあしたのための米とぎにゆく
「炊事場」に生活感がある。二句(知らせて)では。
西日さす厨の窓にわが描きし墨絵の富士を張りてたのしむ
作品を生活に活かす作者の心情が出て、楽しい歌。

島育ち幼馴染みが石段を喘ぎ登り喜寿を詣でる
懐かしくかつ現代的。三句以下(喘ぎつつ喜寿を詣つと石段のぼる)に。
◆選者詠

物あまた持たぬ暮らしにあこがれつつまたも購ふ客用の布団
ながく病む母のいのちを支ふるは二十二本の歯と食欲と

俳句作品集

- 宗像市 日の里 石松 弘次
くす若葉朝日に照りてえん天か
宗像市 武丸 白土 凌一
梅雨来たり田んぼに水張り田植かな
宗像市 多禮 早川 祥三
屏風背にせせらぎ渡すつつじ寺

7月祭事暦
1・15日 月次祭
午前10時～ 高宮祭、第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
午前11時～ 総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊米舞奉奏(15日)
30日 第59回 中津宮七夕揮毫会
午前9時～ 於=大島・中津宮
31日 夏越の大祓神事
午後5時～ 大祓式 於=神門前
引き続き 夏越祭 於=本殿

編集後記

サッカーワールドカップが開幕。開催地であるブラジルには明治から昭和にかけて多くの日本人が移民。過酷な労働、差別など苦難に耐え、徐々に根を張り、今では政府の要職に着く人材も輩出するなど、一五〇万人以上の日系人が暮らし、ブラジル大神宮はじめ十社程の神社が鎮座しているという▼故郷日本に思い馳せ、精神的支柱として神社を建立したのか、正確な背景まではわかりませんが、日本の裏側に位置する異国の地においても、神社神道、日本の心が息づいているのです▼現在、一敗一分、決勝トナメント進出が危がまれているが、最後のコロンビア戦、日本の心が息づく場所、日系の皆様の前で、日本人として誇れる試合を期待したい。(鈴)

発行所
宗像大社社務所・宗像会
住所 千八一一三三〇五
福岡県宗像市田島三三三
電話 (〇九四〇)六二一一三二(代)
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 セネラルアサヒ
毎月1日発行
定価1年送料共 1,000円